

「キリストのことばを豊かに住ませ」 コロサイ 3：16

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい」：16。新しい人に対する奨励が続く。私たちが新しい人として歩む時、何よりも大切なことは、「キリストのことば」（自分のことば、考え、人間の言葉、教えではなく）が、私たちの心の奥底に定着すること。

I キリストの生きたみことばは、私たちの考え方、物のとらえ方を変える。偏見、偏った考え方、一面的から、全体を見る力、霊的（神の御手にあるこの出来事はどのような意味があるのだろうか）に考える力を与え続けてくださる。そのためにも、キリストのことば、聖書を一部分ではなく、全体を読むことが非常に大切。聖書通読の大切さ、恵み。その全体の光をもって、ある箇所を深く読み味わう（聖書通読とディフォーションは共に大きな恵み）。みことばこそ私たちの「足のともしび」「道の光」（詩119：105）。

II 「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ」。

1. 個人的：毎朝（1日の中でそれぞれに時間が取れる時）の神との交わりのディフォーション。御言葉を読み味わい、記し、心の内に豊かに住ませる。その御言葉が、一日を支え、導いて下さる。
2. 教会全体の礼拝で。教会に祈られて、礼拝の御言葉、メッセージが準備される。礼拝メッセージは、1週間準備する説教者と祈り支える信徒の共同の業、実、結晶。その生きた御言葉が、礼拝に参加される一人一人の心の内に住ませられ養われる。教会全体も導かれ養われる。その御言葉で、1週間、支えられる。理論や知識ではなく体験で分かる。礼拝に出席できることは、大きな恵みだと！「教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいものによって満たす方の満ちておられるところです」エペソ1：23。
3. この勧めは、教会という共同体に向けられている。つまりキリスト者の群れの中にキリストのことばを住ませなさいと言われていた。このことから、初代教会においては、個人個人の生活ばかりではなく、教会の交わりのまっただ中で、みことばを互いに分かち合う生活が実践されていたことを知らされる。私たちも、教会の交わりの中でみことばを互いに分かち合いたい。互いに分かち合う時、御言葉の恵みが増し加わる。互いに教えられる。同じ御言葉、メッセージを聞いても、それぞれが、主から教えられる事を分かち合う時、お互い、他の人から教えられる。補い合える。素晴らしい恵み、発見がある。

「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」マタイ18：20。主を中心に小グループで集まり、主の御言葉の恵みを分かち合う時、主は、喜ばれ、その交わりの中に臨在して下さる。

III 主の御言葉を豊かに住ませる結果、実。

1. 「知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め」。このみことばの前に「キリストのみことばをあなたがたのうちに豊かに住ませ」が先に来ていることが大切なポイントである。キリストのみことばを住まわせないまま人間的知恵で互いに教えるなら御心から外れて行く。しかし、まず主のみことばを、自分の中に、そして教会の交わりの中に住まわせるなら、主のみことばから知恵を尽くして教

え、互いに戒め合うことができる。私たちが、自分自身がみことばから教えられたことを素直に（人に向けて教えてやろう、戒めてやろうという動機でなく）分かち合う時、聖霊が働かれ、その真実な分かち合いを通して互いに教えられ、互いに戒められる。これが主にある交わり、みことばの分かち合いの素晴らしさである。「住ませ」原語：住ませ続けなさい。この原語の他の箇所から教えられこと→「私のうちに住みついている罪」（ローマ7：17）。私たちの心にはまだ罪が住みついているので、その罪の力より強い主のみことばを心と交わりに住みつかせ続ける必要がある。「御霊が、あなたがたのうちに住んでおられる」（ローマ8：11）。励まし→御霊は、私たちの心に、教会の交わりに住んでおられる。そこに主のみことばを住ませる時、御霊は喜び、みことばを教えてください。旧約時代は、神は幕屋、神殿（至聖所の契約の箱の中には十戒を刻んだ二枚の石、神のことばが入れられていた）に住まわれた。そして今は、「神のことば」と呼ばれる主（黙19：13）、みことばを心に刻んでくださる聖霊なる神が、私たちの心に、そして教会の交わりに住んで下さっている！

2. 「詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれ心から神に向かって歌いなさい」。主の御言葉を私たちの内に豊かに住ませる時、主の恵みに満たされ、詩と賛美と霊の歌が生まれる。「感謝にあふれ」とは、良い事ばかりあるという事ではない。試練や苦しみがあっても、同時にいつも与えられている主の恵みに、御言葉は、気づかせて下さり、感謝が生まれる。主の御言葉を心に住ませ味わう時、私たちの身に起こる出来事を、人間的な視点ではなく、すべてを支配なさる神のご計画の視点で見ることが出来るようになる。神への礼拝、賛美は、神が最も喜ばれる応答である。

3. 御言葉の素晴らしさ。「父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みに（自分の罪を認めさせ、主を信じる信仰を与え救われる新生）なりました」ヤコブ1：18。

「すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」Iペテロ2：1, 2。

「あなたのおきて（みことば）に思いを潜めます。まことに、あなたのさとしは私の喜び、私の相談相手です」詩篇119：23, 24

「私には、あなたの戒め（みことば）があるので、わきまえ（判断力）があります。それゆえ、私は偽りの道をことごとく憎みます。あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です」119：104, 105

「人々にこのいのちのことばを、ことごとく語りなさい」使徒5：20。

「主よ。…あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます」ヨハネ6：68

「その人は主のおしえ（みことば）を喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ（思い巡らす）。…時が来ると実がなり、その葉は枯れない」紙片1：2, 3